

講習名	I. 伊勢志摩課題解決基礎	II. 伊勢志摩課題解決演習	III. 伊勢志摩課題解決実習	IV. 伊勢志摩課題解決展開
総時間	12	14	32	8
開講時期	秋(1年目)	春(2年目)	通年(2年目)	秋(2年目)
アクティブ・ラーニング	グループワーク	ディスカッション	体験	プレゼンテーション
実務経験	あり、外部実務家	あり	あり	あり
担当者	池山敦	池山敦	池山敦	池山敦
【目的】	自身のこれまでの取り組みと、地域課題「観」を整理したうえで、地域課題解決の基礎的事項と、先端事例を含む実践・研究経験に基づいた知識を座学とワークにより体系的に修得することを目的とする。	地域課題を解決するにあたり、自身の課題及び解決に向けたこれまでの取り組み、今後の道筋等をまとめ発表する。また、他の受講者の発表を聞き議論することを通して、各自の課題解決を実現に近づけることを目的とする。	地域課題を実際に解決する活動に従事する。その際に、事前に実習計画を策定し、実習の達成目標を設定したうえで、地域課題解決の実現により近づくことを目的とする。	地域課題を解決するに当たり、情報発信は重要である。そのことによりネットワークを構築し、より課題解決を加速させることができる。本講習はこれまでの取り組みを論理的にまとめ、効果的に発信することを目的とする。
【内容】	<p>1 ガイダンス・地域課題「観」の整理(2H) 講師：池山敦(本学准教授)</p> <p>2 住民主体の地域づくりの事例(2H) 講師：(同)人・まち・住まい研究所 浅見雅之</p> <p>3 復興まちづくりから学ぶ合意形成の事例(2H) 講師：(一社)東北まちラボ 橋本大樹</p> <p>4 若者による地域課題解決の事例(2H) 講師：岸川政之(本学教授)</p> <p>5 観光資源の活用による地域課題解決の事例(2H) 講師：千田良仁(本学教授)</p> <p>6 まとめと振り返り～地域課題「観」の再構築(2H) 講師：池山敦(本学准教授)</p> <p>7</p>	<p>ガイダンス 講師：池山敦(本学准教授)</p> <p>受講生1の発表と議論(0.5+1.5H) 講師：池山敦(本学准教授)</p> <p>受講生2の発表と議論(0.5+1.5H) 講師：池山敦(本学准教授)</p> <p>受講生3の発表と議論(0.5+1.5H) 講師：池山敦(本学准教授)</p> <p>受講生4の発表と議論(0.5+1.5H) 講師：池山敦(本学准教授)</p> <p>受講生5の発表と議論(0.5+1.5H) 講師：池山敦(本学准教授)</p> <p>まとめ 講師：池山敦(本学准教授)</p>	<p>ガイダンスと実習計画、目標設定(2H) 講師：池山敦(本学准教授)</p> <p>実習1(7H) 自身の実習計画、目標に従い実習を行う 終了後実習報告書を提出、講師のフィードバック</p> <p>実習2(7H) 自身の実習計画、目標に従い実習を行う 終了後実習報告書を提出、講師のフィードバック</p> <p>実習3(7H) 自身の実習計画、目標に従い実習を行う 終了後実習報告書を提出、講師のフィードバック</p> <p>実習4(7H) 自身の実習計画、目標に従い実習を行う 終了後実習報告書を提出、講師のフィードバック</p> <p>まとめと振り返り(2H) 講師：池山敦(本学准教授)</p>	<p>ガイダンスと発表概要の確認(2H) 講師：池山敦(本学准教授)</p> <p>発表概要のブラッシュアップ1(2H) 講師：池山敦(本学准教授)</p> <p>発表内容のブラッシュアップ2(2H) 講師：池山敦(本学准教授)</p> <p>伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラム学修成果発表会における発表(2H) 講師：池山敦(本学准教授)</p>
【総時間数】	12時間	14時間	32時間、進捗は各自による	8時間
【到達目標】	①自身の地域課題「観」について整理し、他者にそれを説明できる。 ②地域課題解決の基礎的事項について説明できる。 ③学んだ事例につき自身の課題解決に応用できる点について説明できる。	①自身の課題解決について論理的にまとめ、効果的に伝えることができる。 ②他者の発表に対して建設的に意見し、議論することができる。	①適切な課題解決の目標を設定することができる。 ②目標に向かい計画に従い取り組むことができる。	①自身のこれまでの取り組みについて論理的にまとめ効果的に伝えることができる。 ②発表した内容を元に、多くの聴衆の共感を得ることができる。
【授業形態】	講義60分+ディスカッション60分	受講者の発表30分+ディスカッション90分	実際の体験	講師とのディスカッション
【教科書】【参考書】	特に指定しない	特に指定しない	特に指定しない	特に指定しない
【成績評価の方法】	レポート他により評価する。評価は別紙ルーブリックによる。観点は次の3点で、5段階評価(理想的、優れている、標準的、発展途上、要改善) ①地域課題「観」についての整理 ②地域課題解決の基礎的事項の理解 ③自身の課題解決への応用	レポート他により評価する。評価は別紙ルーブリックによる。観点は次の2点で、6段階評価(理想的、優れている、標準的、発展途上、要改善) ①論理的に作成した内容を効果的に伝える ②他者の発表をよく聞き、建設的に議論に参加する	レポート他により評価する。評価は別紙ルーブリックによる。観点は次の2点で、7段階評価(理想的、優れている、標準的、発展途上、要改善) ①適切な実習目標・計画の策定 ②目標に向かい、計画に従い実習を実施する	レポート他により評価する。評価は別紙ルーブリックによる。観点は次の2点で、8段階評価(理想的、優れている、標準的、発展途上、要改善) ①これまでの取り組みの総括の発表資料の作成 ②プレゼンテーション
【成績評価の基準】	到達目標の内容をほぼ完全に理解し、説明できる。 ……90～100点 到達目標の内容を十分に理解し、説明できる。	到達目標の内容をほぼ完全に理解し、説明できる。 ……90～100点 到達目標の内容を十分に理解し、説明できる。	到達目標の内容をほぼ完全に理解し、説明できる。 ……90～100点 到達目標の内容を十分に理解し、説明できる。	到達目標の内容をほぼ完全に理解し、説明できる。 ……90～100点 到達目標の内容を十分に理解し、説明できる。
【受講学生への要望】				
【履修注意】				
【備考】				